

会員・学生・地域の皆様

第27回「文化大学」講座のお知らせ

公益社団法人 米沢有為会

* 第27回予定だった武田篤氏講座は、講師の体調都合で来年度へ延期させていただきます。

金融工学が専門の講師が、郷土の名君・上杉鷹山公の藩政改革を金融面から分析する。

上杉家は会津120万石から、2度の削封を経て米沢15万石へと1/8の石高となったのに、6,000人の家臣数をほぼ維持した（給与は1/6に）。その結果、他藩にさきがけ財政が窮乏化し、借金が20万両超（現在の価値で200億円）までに達した。その最悪期の1767年、17才で米沢藩主となったのが九州の小藩・高鍋藩よりの養子・上杉鷹山公である。

鷹山公の藩政改革は3期にわたった。1, 2期は結局挫折。3期目に好転し、借金解消は鷹山公が72才で亡くなる頃だった。この展開を次の面から、定量的に分析してみる。

1. 米沢藩の財政窮乏化がどのように進展し、赤字財政をどう資金繰りしたのか？
2. 3期にわたる改革は、どのようにして成功に至ったか？
3. 江戸の三谷家、越後の渡辺家、酒田の本間家など米沢藩への金主（大名貸し）はどんな役割を果たしたのか？単なる金貸しだけでない貢献面も観察する

記

日 時：2018年9月29日（土）午後2時～4時

場 所：東京興譲館（調布市入間町1-36）

テーマ：上杉鷹山公の藩政改革とファイナンス（財政・金融）

講 師：元・野村総合研究所取締役、元・大坂経済大学教授 加藤 国雄

略 歴：米沢興譲館高校昭和39年卒業。東京興譲館寮OB

東京工業大学理工学部経営工学科卒業後、野村総合研究所に入社し、主として「金融工学」分野に携わった。野村総合研究所取締役、野村アセットマネジメント執行役を経て、野村アセット投信研究所常務執行役となりファイナンスや金融工学の大学教育にも携わった。野村退職後、大阪経済大学専任教授。現在、米沢有為会理事

<主な著書>

（単著）「高度金融活用人材のための ファイナンスの理論と金融新技術」2013年、金融財政事情研究会

（論文）「債券のパッシブ運用」1989年（第1回証券アナリストジャーナル年間優秀論文賞受賞）

<米沢有為会第 27 回文化大学 講演内容>

テーマ：上杉鷹山公の藩政改革とファイナンス（財政・金融）

講師：加藤 国雄（元・野村総合研究所取締役、元・大阪経済大学教授）

<内容（予定）>

1. 上杉鷹山入門

- 1) 上杉家の系譜・略史
- 2) 上杉鷹山の藩主としての資質形成過程
- 3) 藩政改革の概要
- 4) 上杉鷹山像の形成（戦前、戦後）

2. 米沢藩の財政窮乏の要因

- 1) 米沢藩の地勢、物産
- 2) 米沢藩の実高推移
- 3) 直江景次の改革
- 4) 米沢藩の財務構造
- 5) 米沢藩の財政窮乏の経過
- 6) 米沢藩固有の問題か？

3. 鷹山改革の過程とその成功・失敗要因

- 1) 第 1 期（1767～1782 年）；鷹山と竹俣当綱による積極的拡大政策
- 2) 第 2 期（1782～1790 年）；鷹山と志賀祐親による消極的縮小均衡政策
- 3) 第 3 期（1790～1822 年）；鷹山・治広と荻戸善政による積極的縮小均衡政策

4. 「大名貸し」への依存と金主との関係

- 1) 「大名貸し」と江戸金融システム
- 2) 米沢藩を支えた 3 大金主
 - ・江戸・三谷家
 - ・越後・渡辺家
 - ・酒田・本間家

以上